

令和7年度 県立石岡商業高等学校自己評価表

目指す学校像		地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力を育むとともに、社会に有為な調和のとれた人間力の育成に努める。			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
学習指導では、3観点による学習評価により、生徒の学習の成果を的確に捉え、授業改善に生かすことに取り組んだ。その結果、生徒による授業評価では、7項目（4点満点）すべてで、平均が3.5以上の評価になるなど一定の成果をあげた。資格取得では、全商検定1級8種目以上合格を1名が達成するなど健闘したが、さらなる上位資格取得率の向上が望まれる。 進路指導では、高校生向け求人票管理システム「Handy進路指導室」の利用により求人票の整理やデータ入力が軽減され、生徒と向き合う指導時間が大幅に増えた。進路決定率は進学が98.1%、就職が85.7%、全体では91.8%であった。進学は、ほとんどが指定校推薦であり、一般入試対策が必要である。就職では、面接試験での対話力が求められており、表現力、コミュニケーション能力の育成が急務である。 生徒支援では、服装・頭髮・登校指導を定例で行い、基本的な生活習慣の確立に努めた。ここ数年、多様な悩みを抱える生徒が増えていることや、いじめや問題行動等の未然防止と早期発見のためにも、組織的に支援する体制の強化が求められる。 部活動では、簿記珠算部の全国大会出場、弓道部、空手道部の関東大会出場、陸上部の県大会ベスト8入賞等、各部ともに熱心に活動した。野球部は、昨年に引き続き秋季大会で地区予選を勝ち抜き、2年連続で県大会出場を果たした。学校行事においては、クラスマッチや桐商祭等で生徒が主体的に取り組む姿が見られた。 地域交流活動では、市主催のイベント等に積極的に参加した。やさど観光果樹組合と連携は3年目となり、いちごや柿などの特産物をSNSで発信したり、柿のPRで県庁に表敬訪問するなど積極的に活動した。継続的に実施してきた商業科による中学生への出前授業（簿記、電卓、マーケティング）も7年が過ぎ、本校を進学先を選ぶ生徒の増加に貢献している。勤務時間を意識した働き方の浸透にも取り組んだが、時間外在校等時間の月平均時間等の割合が県平均を上回っており、課題となっている。		1 授業の工夫・改善を図り、主体的に学習に取り組む態度と確かな学力を育む	①学習指導のRPDCAサイクルを確立し、学習意欲と基礎学力の向上を図る。 ②生徒による授業アンケートの授業満足度平均値3.6超過を実現する。 ③資格取得を通して実践的な学力を養成し、希望進路を実現する。 ④学習場面に応じたICT活用を推進する。		B
		2 規範意識を醸成し、基本的な生活習慣を確立する	①様々な活動を通して、規範意識・社会性・思いやりの心を育てる。 ②面談や教育相談を活用し、生徒理解を深め、信頼関係を構築する。		A
		3 組織的・系統的なキャリア教育を推進する	①キャリア教育を推進し、進路意識の高揚と目標実現のための実践力を育成する。 ②実習などの体験的な学習を通して、協力・協働していく力を育成する。		A
		4 特別活動の充実を図り、豊かな心を育む	①特別活動を通して、心の居場所となる学級・学校づくりを推進する。 ②生徒会活動、部活動を活性化し、リーダーとなる人材を育成する。		A
		5 地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する	①中学校や地域との連携・交流活動を推進し、相互理解と協力関係の醸成に努める。 ②学校通信、ホームページ、学校公開などを通して、積極的に情報を発信する。		B
		6 安全で安心な教育環境作りを目指すとともに、教職員の働き方改革を推進する。	①生徒・職員の健康と安心安全に資する教育環境作りを図る。 ②勤怠管理支援システムを活用して、自らの働き方を見直し改善する。		A
三つの方針		具体的目標		評価	次年度への主な課題
三つの方針ポリシー	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	①地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力の育成 ②社会に有為な調和のとれた人間力の育成		B	地域の課題を自分事として捉え、解決策を探究する学習の重視。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	①商業高校ならではの、役立つ技術・確かな資格を生かした進路希望の実現 ②企業人に必須のビジネスマナー・規範意識に基づくコミュニケーション能力の育成		B	自らの学びを振り返り、知識・理解を整理して進路選択に役立てる。
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	①高校から新しく学ぶ商業に興味関心を持って意欲的に学ぶ生徒 ②資格取得、学校行事や部活動及びボランティア活動に積極的に取り組む生徒		B	学校説明会や公開授業、HP等を通じて、学校が期待する生徒像を積極的に明示する。
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度への主な課題
教科指導	学習意欲と基礎学力の向上を図る。	教科ごとに学習におけるRPDCAサイクルを確立し、確かな学力の定着を図る。	B	B	・指導と評価の一体化 ・ICTを基盤とした、発信・対話型授業の定着 ・外部リソースの活用による、探究的・実践的な学習活動の拡充
		知識・技術等の定着を助けるAIドリル等を活用する。	B		
		ICT機器を活用した個別最適な学びと主体的・対話的な学習機会の充実により、授業満足度を向上させる。	B		
		職業資格等の資格取得奨励を通じた学習意欲の向上を図る。	A		
	学習の基盤としての言語活動の充実を図る。 キャリア教育の充実	科目の特性に応じた語彙の習得を図り、情報を的確に理解し効果的に表現していく機会を設ける。 地域や企業と連携した学習活動や体験活動を積極的に取り入れていく。	B A		
特別活動	部活動の活性化と生徒会活動の充実を図る。	部活動の加入率を上げるとともに、生徒会活動を活性化する。	A	A	・学校行事において、生徒の主体性を尊重しつつ、さらに良いものを作るという意欲を持たせる働きかけ。 ・部活動運営の充実を図るための取り組み
	感染予防に配慮して、文化的・体育的学校の行事の充実を図る。	感染症予防の工夫や配慮をしながら文化祭・クラスマッチ等を実施し、感性を育て、クラスの連帯意識を培う。	A		
	キャリアパスポートの充実をはかる。	定期的に自己の生き方や進路に対する見直しと振り返りを行うことで、新たな学習や生活への意欲につなげる。	B		
	生徒の自発的活動の促進を図る。	生徒会活動及びホームルーム運営等で、生徒の自発的活動の促進を図り、適切な指導、援助を行う。	A		

生徒支援	基本的生活習慣の確立	気持ちの良い挨拶や礼儀をふまえた言動ができるよう指導する。	A	A	・遅刻の減少に向けた家庭との連携の強化。 ・自転車の交通違反に対する反則通告制度導入の周知徹底。 ・夏季におけるポロシャツ導入の検討。
		頭髪や服装について、生徒の人格・立場を認めた上で、粘り強く指導する。	A		
		遅刻調査により定期的に状況を把握するとともに、家庭と連携しながら遅刻の減少に努める。	B		
		体罰によらない指導を徹底する。	A		
	交通安全指導の徹底	交通ルールや交通マナー、交通関係の校則についての周知と理解を促進し、交通事故の未然防止に努める。	A		
		いじめ防止基本方針の周知と理解を促進し、いじめの未然防止に努める。	A		
		日頃から生徒の様子をよく観察し、いじめや非行の兆しを見逃さないようにする。	A		
		問題行動が発生した場合は、保護者との連絡を密にしながら、事態の解決を図る。	A		
進路指導	能力・適正に合った進路を決定させる。	アルバイトをする際は、必ず所定の手続きをするよう指導する。	A	A	・生徒の職業観の変化に伴うキャリア教育の在り方 ・来客数の増加に伴う進路指導部内での対応計画 ・進学者増加傾向による対応 ・モラル・コンプライアンス等の社会的規範意識の定着化
		スクールカウンセラーや相談フォームの活用促進により、充実した学校生活を支援する。	A		
		担任が一人で問題を抱え込むのではなく、学年・生徒支援部等が連携して対応する。	A		
		必要に応じて、ＳＣ・ＳＳＷ・県教育研修センター・外部関係機関等との連携を図る。	A		
	上級学校への進学を推進する。	組織的・系統的なキャリア教育を実践し、進路意識を高める。	A		
		進路講話、ガイダンス等の開催、または進路情報の提供等を通して進路に対する考え方や態度を早期から養う。	A		
		基礎学力の向上を図るとともに志望校に応じた指導を行い、合格に結びつける。	A		
		資格を生かした進学についての情報提供に努める。	B		
教 務	教育課程の編成	基礎学力や資格取得等の能力向上を図る。	B	A	・グランドデザインの具現化に向けた教育課程の再編 ・教育環境の整備 ・図書館の利用者数増加
		積極的に職場見学等の就職活動を行う指導をし就職内定に結びつける。また面接指導の充実を図る。	A		
		商業高校の特色を活かした、生徒の希望に対応できる教育課程を編成する。	B		
		地域の人的・物的資源を積極的に活用した家庭・地域との連携を図る。	A		
	ＩＣＴを活用した学びの充実	ＩＣＴ教材を活用した個別最適な学びの充実を図る。	A		
		１人１台端末を活用した協働的な学びの充実を図る。	A		
		各種ＩＣＴ機器の最新の環境づくり及び適切な管理（更新等も含む）を行う。	A		
		ホームページや広報紙等を利用し情報の提供に努める。	A		
保健厚生	広報活動の充実	開かれた学校づくりを推進し、生徒、保護者、地域の声を真摯に受け止め、学校運営に生かす。	A	A	・学年との連携、必要に応じた健康相談の実施。
		緊急時における家庭への連絡を、ホームページや緊急情報メール等で迅速に対応する。	A		
		図書委員会を適宜に開催する。	B		
		新着図書を「図書館だより」等で広報する。各教科から生徒に薦める図書をあげてもらう。	A		
	図書館の充実	現在保有の視聴覚機材・教材等のより一層の利用促進を図る。	B		
		心身ともに健康でたくましく生きることができる人間の育成をめざし、健康の保持増進に努める。	A		
		心身の健康状態の把握に努め、生徒が自主的に自分の健康を保持増進できるよう適切な指導・援助を行う。	A		
		学年・担任との連携を図り、健康に問題のある生徒の支援と管理に努める。	B		
渉 外	地域と連携した、防火防災に対する心構えを身につける。	学年との連携を図り、積極的に健康相談を実施する。	B	A	・本部役員の確保 ・PTA研修として、桐商祭等への参加検討
		早い時期に避難経路を理解させる。地域と連携した実践が出来るようにする。	A		
		ハンドソープやアルコール消毒機の設置などを継続し、学校生活における保健体制を維持・継続する。	A		
		全生徒に手洗い・うがいを引き続き励行させる。	A		
渉 外	ＰＴＡ、同窓会との連絡を密にする。	各種行事への出席者を増やす方法・内容を充実させる。	A	A	・本部役員の確保 ・PTA研修として、桐商祭等への参加検討
		ＰＴＡ・同窓会との親睦を図るとともに、効率的な運用を目指す。	B		
		総会・理事会・生徒支援広報委員会の見直しを図る。	A		

第 1 学年	基本的生活習慣の育成に努める。	高校生活が無事スタートできるよう、入学後オリエンテーションを実施する。	A	A	・ 集団生活におけるコミュニケーション能力の育成。 ・ 基本的生活習慣の確立。 ・ スタサブ活用の充実。 ・ 進路実現を見据えた指導。
		生徒の個人面談を年 3 回程度実施し、生徒理解に努めるとともに必要に応じて関係機関と協力し、健全な高校生活が送れるように支援する。	A		
		登校指導や H R において挨拶の励行や、正しい言葉遣いやきちんとした制服着用の徹底を図る。	A		
	将来を考える態度の育成に努める。	頭髪・服装指導を徹底して行い、身だしなみを整えさせる。	B		
		進路ガイダンスを実施し、進路に関する意識の高揚を図る。	B		
		H R や個人面談を通じて自分の将来を考えさせるとともに、その実現に向けて、部活動の参加や資格取得への取り組みを促すなど学校生活の充実を図る。	A		
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携し、授業態度など生徒の実態把握に努める。	B		
		I C T 教材による基礎学力の更なる向上に努める。	A		
	自他を大切にし、豊かな心を育てる。	学校行事を通じて規範意識・社会性の育成に努める。	B		
		L H R などを通じて、思いやりの心の育成に努める。	A		
第 2 学年	規律ある生活態度を身につけさせる。	登校指導や H R において挨拶の励行や、正しい言葉遣いの徹底を図る。	B	A	・ 最上級学年としてふさわしい言動で生活する。 ・ 希望進路の実現。 ・ スタサブの有効活用。 ・ 上級資格への挑戦、取得。
		集会や遅刻指導等で、時間を守る習慣を身に付けさせる。	A		
		服装・頭髪をきちんとさせる。	B		
		清掃を徹底し、生活環境の美化に努め、感染症予防に努める。	A		
	進路実現に向けての目標を明確にさせる。	進路ガイダンス・インターンシップ等の様々な機会を通して、進路に対する意識の高揚を図る。	A		
		H R や個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。	A		
		進路希望の実現に向けて、上級資格取得の推進を図る。	B		
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携しながら、授業を大切に、真剣に取り組む姿勢を育てる。	B		
		スタディサブリなどの I C T を活用し、基礎学力の向上に努める。	B		
	自他を大切にし、豊かな心を育てる。	検定試験に向けての課外授業等に積極的に参加させ、上級資格取得を目指す。	B		
		L H R や修学旅行等を通して、他人を思いやる心の育成に努める。	A		
		清掃・H R 等を通じて、物を大切にする心を育てる。	A		
		H R や集会等を通して、SNS の利用方法や社会マナー、交通ルール等を身につけさせ、豊かな心の育成に努める。	A		
第 3 学年	規律ある生活態度を育成する。	服装・頭髪指導の徹底を図る。	A	A	・ クラスルームの有効活用
		時間厳守・挨拶・正しい言葉遣いを奨励する。	A		
	進路指導の充実を図り、希望進路の実現を目指す。	H R や個人面談等で進路意識の高揚を図り、進路目標の早期決定及び希望進路の実現に向けて指導にあたる。	A		
		就職や進学試験における面接や作文、適性検査への対応を図る。	A		
	学習指導の充実を図る。	日々の授業や I C T 教材を活用し、基礎学力の向上を図る。	B		
		上級検定資格取得に向け、積極的に取り組ませる。	B		
	心の教育の推進を図る。	特別活動を通して、自他を大切にし、他人を思いやる心や豊かな心の教育に努める。	A		
		H R や学年集会を通して、社会マナーや交通ルールを身につけさせ、その重要性を理解させる。	A		

教	国語	基礎学力の向上を図る。	漢字力・語彙力の向上を図り、実社会に必要な知識や技能を身に付けさせる。	B	B	・漢字力・語彙力の向上及び定着。 ・正しい日本語によるコミュニケーション能力の向上。
			机間指導等によるきめ細やかな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討する。	A		
			授業時以外も課題に取り組ませることで、自学する力の涵養を図る。	B		
		思考力を培い、豊かな表現力を育む。	多様な教材に触れることで、多くの価値観を学び、自身の考えを深めるきっかけにする。	B		
			書く・話す体験を通して、他者の意見を踏まえ、自身の考えを述べる力を高める。	A		
			活発な言語活動を行うことで、多様な意見からの合意を形成する過程などを学び、それを生かす能力を養う。	B		
	生徒が理解しやすい授業改善に努める。	授業内容、方法、進度等について授業改善チームでの協議を教科の取り組みとして生かす。	B			
			ICTを効果的に活用し、生徒の理解を深める。	B		
		地歴公民	興味・関心を高め、学習意欲を向上させる授業の展開。	生徒の実態に即した教材の精選を行い、諸資料を活用したわかりやすい授業を展開し、学習意欲を高める。	A	A
			時事問題や日常生活の身近な事項も教材として扱い、興味・関心を高める。	A		
	自ら学ぶ意欲を高め、理解を深める授業の工夫。		自ら調べ、問題を解決する能力を高めるために、グループ学習やペア学習などを定期的に取り入れる。	B		
			理解度を確認するため、ノートおよび学習ノート、プリントの提出を実施する。	A		
	数学	常により良い授業への改善に努める。	授業終了後に指導内容を点検し、気が付いた点を記録する。	A	B	・学力の2極化への対応が今後の課題である。 ・定期考査が4回に減り、3年1学期の評価に悩んだ。
			また、定期的に、実践した授業の成果を含めて見直し、報告し合う。	A		
			ICT、視聴覚教材を利用して生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を喚起する。	B		
		基礎学力定着とその向上に努める。	教授法の改善を図る意味で、例題の扱い方や、取り扱う問題の精選のために、実践した授業への生徒の反応を確認し、評価し合う。また、スタディサブリを活用し、基礎学力の向上に努める。	B		
			「主体的・対話的で深い学び」のための指導の工夫に努める。	生徒同士で意見を交換したり、教えあったりすることで問題解決する姿勢を身に付けさせる。そのための、指導法について自己研鑽に努める。		
	理科	基礎学力の向上を図る。	普段の授業を大切にし、理解度の確認のため、振り返りや確認テストをこまめに行う。	A	B	・ICTの効果的な活用の工夫改善 ・生徒主体となる授業の改善
		授業の改善に努める。	指導内容を自然現象や生活体験に関連付けして、興味や関心を深め、理解度を高める。	B		
			実験・観察、演習などの教材研究をすすめると共に授業改善チーム等で情報交換を行う。	A		
			教員主体ではなく、生徒主体となる授業を展開する。	B		
	ICTを活用して生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を喚起する。	B				
	保健体育	生涯を通じて継続的に運動が出来る資質や能力を育てる。	個々の生徒の能力や実態の把握に努め、生徒一人一人に応じた指導を工夫する。また、自ら体調を整え体力を高めることが出来る主体性の育成に努める。	A	A	・各種目の課題に積極的な気持ちで取り組もうとする環境づくり（体育）。 ・ICTを利用したより効果的な授業の展開（保健）。
		健康・安全・環境への意識の向上。	ヘルスプロモーションの観点から、自ら適切な生活行動を選択・実践できるような健康への意識の向上と環境への配慮をし、改善していく努力が必要であることを理解させる。	A		
			健康的な生活習慣が実践できるように意識を高めていく。	B		
	芸術	興味・関心を高め、学習意欲を高める授業。	興味を持つ題材の設定と教材の研究を重ねる。	B	B	・生徒自ら目標を設定し、工夫できる環境づくり。ICT活用の工夫。 ・芸術文化教育の充実。
生徒が自ら創意工夫できる指導方法の工夫。			A			
生徒の実態に合った目標設定内容の工夫をする。			A			
生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成。		鑑賞の時間を通し、日本、諸外国の文化を知り、芸術に関わる喜びを味わう。	B			
英語	基礎学力の向上を図る。	単語テストや小テストをこまめに実施し、就職・進学に向けての基礎学力を身につけさせる。	B	B	・生徒が日々の学習において、目標を設定し、課題解決に向けて主体的に学習に取り組むための支援。 ・ICT機器の効果的な活用	
	分かる喜びを実感する授業実践に努める。	2・3学年の選択授業を通して、実践的な英語力を養成する。	B			
		各担当者が授業内容や方法等について研究協議し、授業に生かして行く。	A			
	各種研修会に積極的に参加する。	B				
興味・関心を高める。	A L T とのチーム・ティーチングが全クラスでできるよう計画を立て、英語への興味・関心を引き出し意欲的に取り組ませる。	A				
	基礎的な知識・技術の習得。	体験活動や実験・実習をとおして、基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、実践的な態度の育成を図る。	A	B	・実験・実習の指導の充実 ・ICT活用の工夫	
生徒の実態に応じた指導。	生徒の実態に応じて視聴覚教材の活用などにより個別指導を充実させ、生徒個々の生活の向上を図る。	B				
科	授業内容の充実。	生徒の実態に応じた指導法・教材の工夫。	A	B	・検定合格者を向上させるための指導の工夫 ・生徒の校外学習参加の機会創出 ・ICT及び生成AIを活用したより効果的な授業の展開	
		実際のビジネスに即した指導法・教材の工夫。	B			
		I C T 教材を効果的に活用した授業を実践し、基礎・基本の徹底を図る。	A			
		基礎・基本を徹底して習得させる指導法の工夫。	B			
	基礎科目の知識定着および検定試験合格者の向上。	生徒の実態に応じた課外等の実施。	B			
		年間を通しての計画的な課外等の実施。	B			
		習熟度に応じた指導法の工夫及び課外等の実施。	B			
	上級資格取得の奨励。	B				
	地域社会への生徒の参画。	地域自治体と協同し校外での学習の機会を設定する。	A			

※評価基準： A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない